

1 実態調査の概要

(1) 調査目的

本研究に関して、学校におけるICT活用の状況を比較するために前回（平成24年度）実施したアンケートと同じ内容の質問調査を行った。加えて、言語活動の充実と児童生徒の情報活用能力の育成を図るために行うべき指導方法の内容について実態調査を実施した。

(2) 内容

- ア 授業での教員のICT活用
- イ 授業での児童生徒のICT活用
- ウ ICT活用と「言語活動の充実」との関連

(3) 対象

県内全ての公立小・中・高等学校・特別支援学校の全教員
回答数 9,928人

(4) 実施時期

平成26年10月

(5) 方法

質問紙法（アンケート形式による調査）
（集計回答表をメールにより返信）

2 調査結果と考察

(1) 授業での教員、児童生徒のICT活用状況（平成24年度調査との比較）

問1-1 授業で、教員（あなた）自身がICTを活用していますか（図2）。

小学校では、「ほぼ毎日」または、「週1回程度以上」活用していると回答した教員が、合わせて約7割以上である。前回調査時（平成24年10月）と比べ約10ポイント程度上昇している。中学校、特別支援学校では約4割、高等学校では約3割であり、こちらも前回調査時よりそれぞれ10ポイント程度の上昇が見られる。全体の平均で見ても、週1回程度以上の活用が5割を超えており、前回調査時に比べ県内の教員によるICT活用は進みつつ

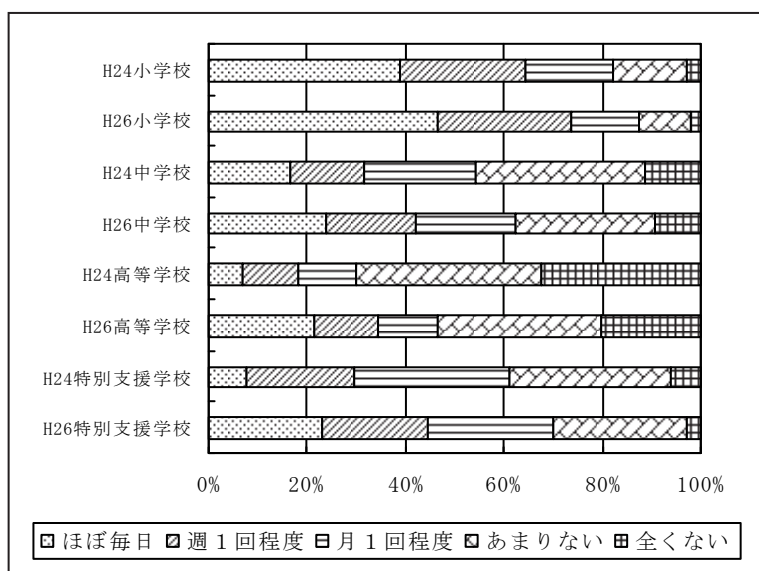


図2 教員のICT活用状況

ある。背景として、ICT環境整備が進んだことや、実際にICTを活用することで、授業効率がよいなど、教員の意識の変化が活用促進の一因になっているのではないかと考えられる。

問1-2 授業で、児童生徒にICTを活用させていますか（図3）。

小学校で「よく活用させている」、「活用させている」と回答した教員が4割超であるが、中学校、高等学校では、「あまり活用させていない」、「活用させていない」との回答が8割超である。特別支援学校でも7割以上であり、前回調査時と比べても大きな変化は見られない。授業での児童生徒によるICT活用に関しては、教員のICTと異なり、進んでいない状況が見られる。その理由として、ICTを「児童生徒に活用させる環境が整っていない」との回答が4割程度と最も多かった。現在の環境下でICTを活用する工夫も必要であるとする。その他の理由に関しては、問1-3のとおりである。

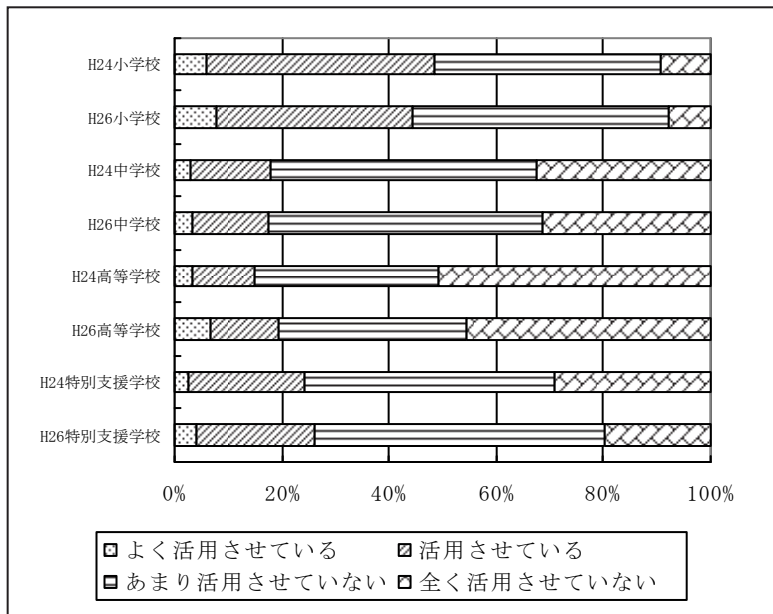


図3 児童生徒のICT活用状況

問1-3 児童生徒にICTを活用させていない理由は何ですか（複数回答）（図4）。

児童生徒にICTを活用させていない理由として、小学校、中学校、高等学校で「活用なしでも授業ができる」との回答が多かった。一方で、「児童生徒に使わせる教材、素材がない」との回答が全校種の平均で2割超である。「活用の仕方が分からない」が4ポイント、「指導する自信がない」が2ポイントとわずかではあるが、全校種平均で前回調査時と比べてそれぞれ増加している。

ICTは教員だけのツールでなく、児童生徒の学習用ツールとしても効果的に活用するものであるという必要性の認識、児童生徒のICT活用を指導する能力の向上が必要であるとする。

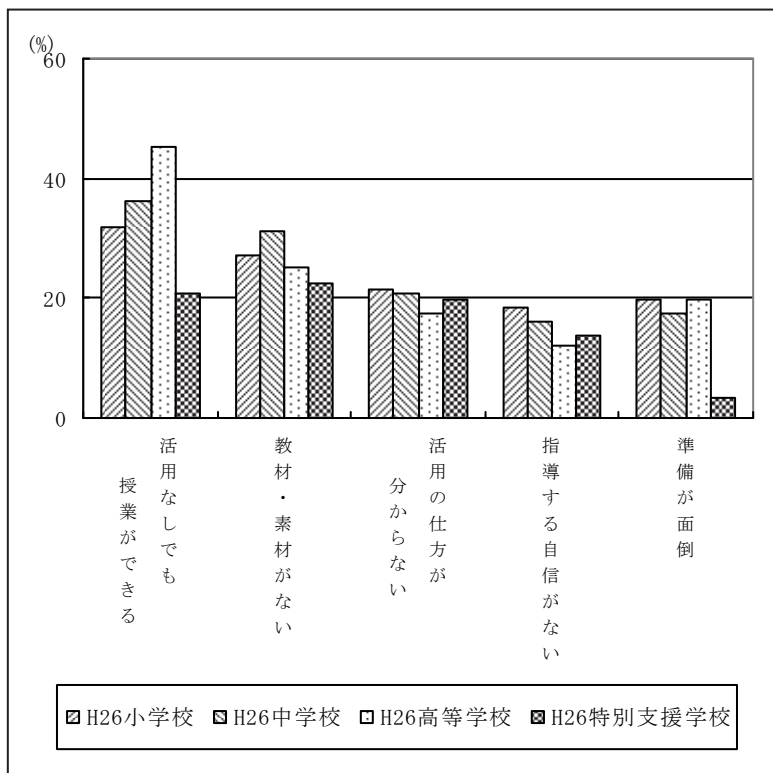


図4 児童生徒にICTを活用させない理由

(2) ICT活用場面

問2-1 どのような場面でICTを活用させていますか(複数回答)(図5)。(問1-2で児童生徒にICTを「よく活用させている」、「活用させている」と回答した教員に対する問い)

全ての校種において、前回調査時と大きな変化が見られない。情報を収集したり選択したりするといった「しらべる」場面での活用が約7割である。一方で、まとめたり、表現したりする「まとめる」場面での活用は、全校種の平均が3割超であり、説明したり、発表したりする「いかす」場面での活用は全校種平均が約4割である。活用する場面により、大きな偏りが見られる。様々な場面でバランスよく活用させることで、児童生徒の情報活用能力の育成を図ることができると思う。

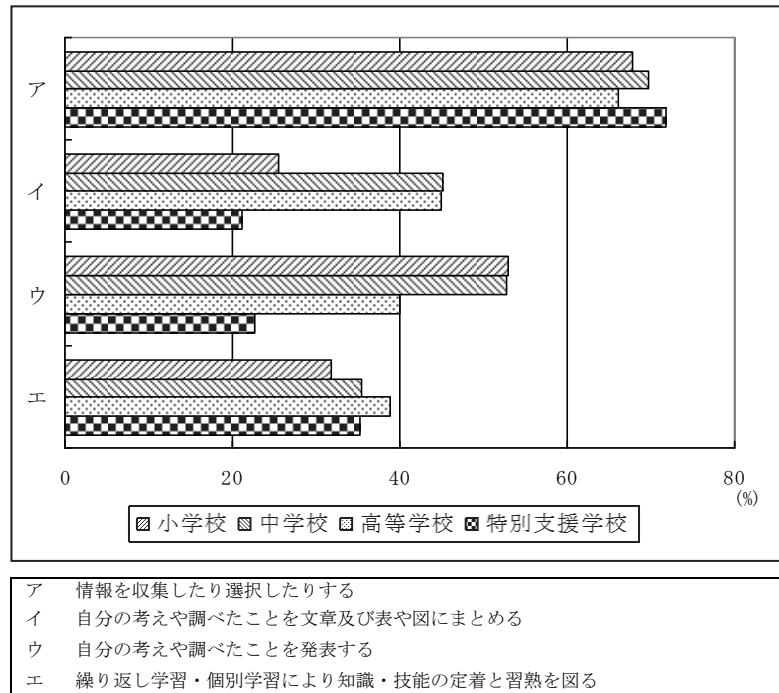


図5 児童生徒にICTを活用させている場面

問2-2 授業での、具体的なICTの活用方法は、どのような方法ですか(複数回答)(図6)。(問1-2で児童生徒にICTを「よく活用させている」、「活用させている」と回答した教員に対する問い)

「インターネットで情報収集し、調べさせる」といった「しらべる」場面での活用が全ての校種において7割前後であった。一方で、まとめたり、表現したりする「まとめる」場面や発表したりする「いかす」場面での活用は、高等学校の「文書作成、まとめ」を除いて、どの項目も5割以下であった。このことから、バランスよく情報活用能力を育成する必要があると考える。

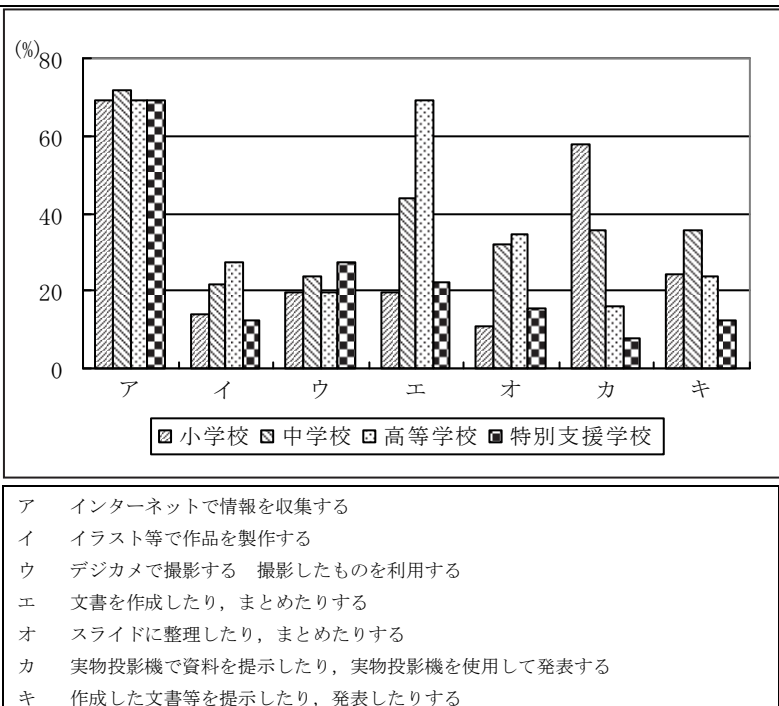


図6 授業での児童生徒のICT活用方法

(3) ICT活用と「言語活動の充実」との関連

問3-1 ICT活用と「言語活動の充実」との関連についてどのように考えますか(図7-1, 7-2)。

ICT活用と言語活動の充実について、「とても関連がある」、「関連がある」と回答した教員の割合は、図7-1のICTを「活用させている」グループの全ての校種の平均は8割を超えている。一方、図7-2のICTを「活用させていない」グループの全ての校種の平均は約7割であり、「活用させている」教員の方が高い割合でICT活用と言語活動の充実の関連を認めている。

現状では、児童生徒にICTを活用させている・いないに関わらずICT活用と言語活動の充実に関連があるとしている教員が多いことから、言語活動を充実させるためのツールとしてICTを活用することについては理解が図られていると考える。

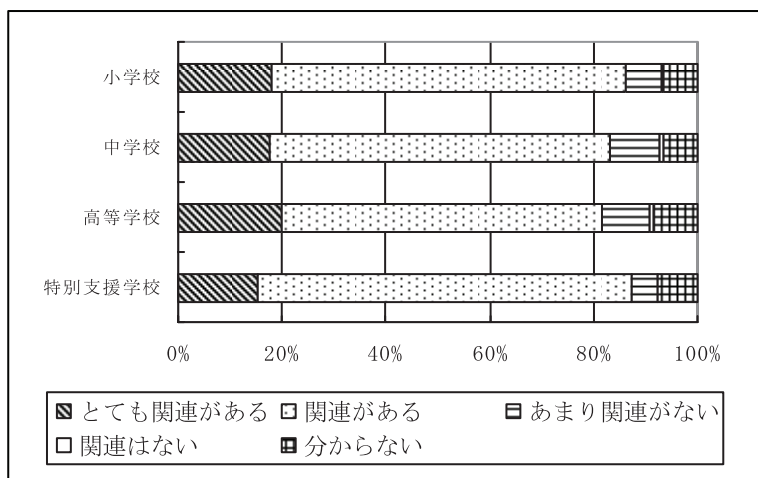


図7-1 ICTを「活用させている」グループの回答

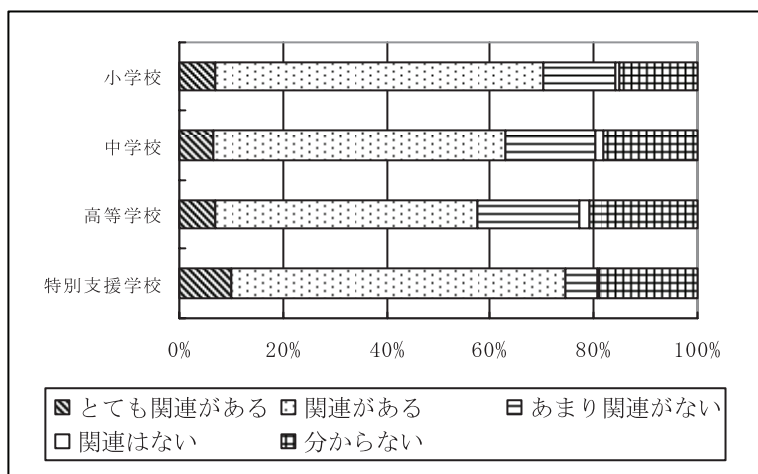


図7-2 ICTを「活用させていない」グループの回答

問3-2 中教審答申(H20)では、各教科で行うべき言語活動の例が示されています。ICTを活用することで、言語活動をより充実させることが可能と思われるものはどれですか(複数回答)(図8-1, 8-2)。

児童生徒のICT活用の有無に関わらず、小中学校では、「課題について、構想を立て、実践し、評価、改善する」が約1割しかない。しかし、その他の項目の平均は約4割であり、ICTの活用は言語活動に効果があるということが読み取れる。高等学校、特別支援学校でもおよそその傾向は、小中学校と同様である。図8-1の「活用させている」グループの高等学校では、「課題について、構想を立て、実践し、評価、改善する」が約3割、特別支援学校では、「体験から感じ取ったことを表現する」が約5割であり、他の校種とは異なっている。発達の段階に応じたICTの使い分けと、校種による特徴によるものであると考えられる。図8-2の「活用させていない」グループの回答を集計した結果においても同様に様々な場面でのICT活用による言語活動の充実が期待されていることが考察される。

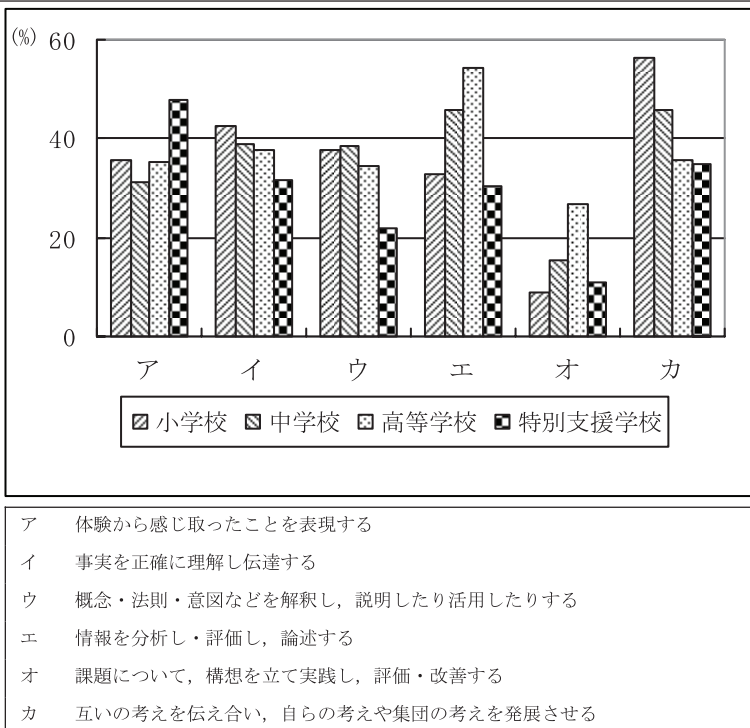


図8-1 ICTを「活用させている」グループの回答(言語活動をより充実させることが可能と思われること)

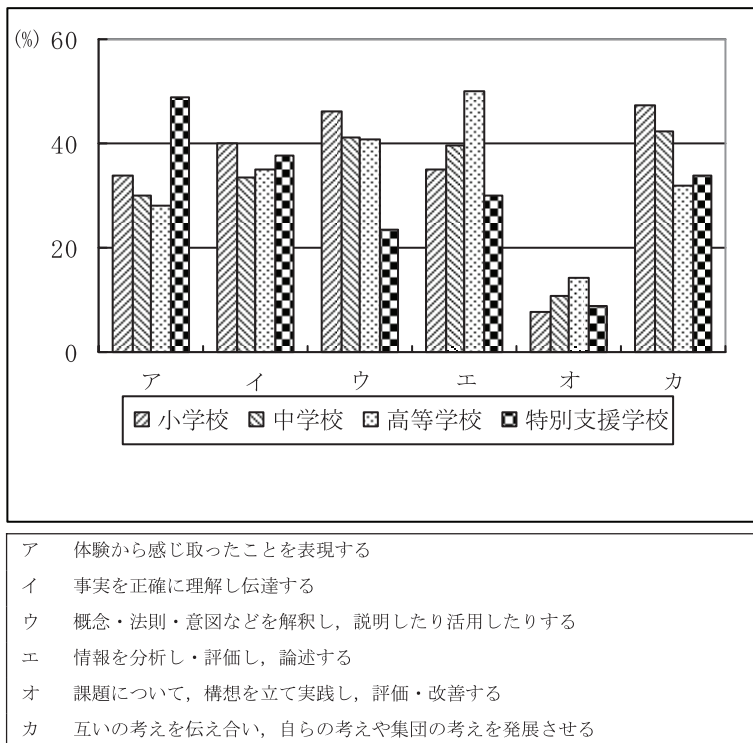
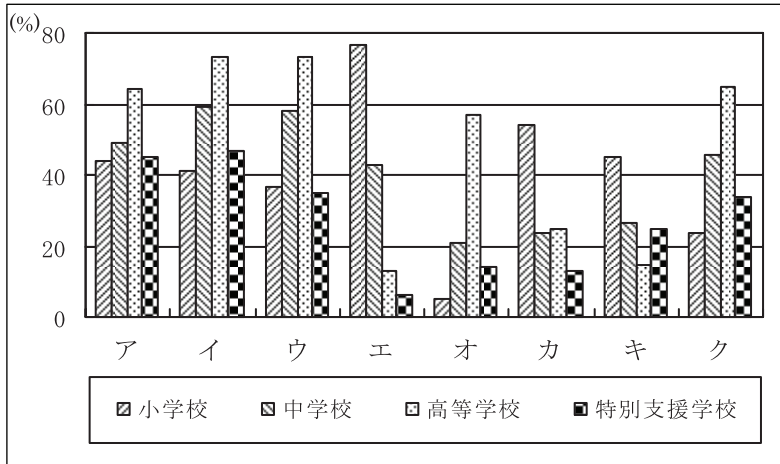


図8-2 ICTを「活用させていない」グループの回答(言語活動をより充実させることが可能と思われること)

問3-3 「言語活動の充実」と関連付けたICT活用をどのように行いましたか。(複数回答可)
 (児童生徒にICTを「よく活用させている」、「どちらかという活用させている」が、「言語活動の充実」を図ることを意識して授業を実施したことがあると回答した教員に対する問い)(図9)。

言語活動の充実を図ることを意識した取組として、小学校では、実物投影機等での拡大表示が大きな割合を占めている。

中学校、高等学校ではアプリケーションソフトを利用したまとめやより効果的に伝えるための活用へと変わっており、発達の段階に応じたICTの使い分けがなされていると思われる。特別支援学校においても、中学校、高等学校と同様の傾向が見られる。



- ア 児童生徒が取材・調査しPC等で発表資料にまとめる
- イ 発表資料にまとめたことをプロジェクト等で発表する
- ウ 調査結果や考えをワープロ、プレゼン等でまとめる
- エ 実物投影機等でノートを提示し、分かりやすく説明する
- オ 表計算ソフト等で、表やグラフにまとめる
- カ 作品を実物投影機等で拡大提示し全体に発表する
- キ 拡大提示された作品等を見て、感想を書いたり話し合ったりする
- ク プレゼンテーションソフト等を活用し、効果的に伝える

図9 「言語活動の充実」と関連付けて取り組んだこと

3 調査結果による本県の情報教育の課題

実態調査の結果から、本県の情報教育を推進する上での課題を、次のように整理した。

- 教員のICT活用は進みつつあるが、児童生徒によるICT活用について、特に、児童生徒が「情報を表現・処理・創造する活動」や「情報を発信・伝達する活動」に取り組む場面におけるICT活用を推進していく必要がある。
- 県下のおよそ4分の3の教員が、ICT活用と言語活動の充実との関連を認識しているが、ICTを活用した言語活動の充実を図る授業実践については、ICT活用及び言語活動の充実を図ろうとする意識をもった取組に差が見られる。
- 学校のICT整備状況や活用できるICT環境、教員個々のスキル等を考慮した、教員のICT活用指導力の向上を図る必要がある。

そこで、本研究では、ICT活用と言語活動の充実との関連や、言語活動の充実を図るための学習過程における活用のポイントを明らかにしたICT活用授業モデルを示すとともに、教員のICT活用に関する指導力の向上に向けた校内研修の在り方等について示すことにした。